

参 考 资 料

< 调 查 票 等 一 式 >

調査票等目次

| | |
|-------------------------------|-----|
| 1. 調査依頼状（全業種共通） | 175 |
| 2. 産業廃棄物等に関する調査票 | |
| ・形式1 | 176 |
| ・形式2（建設業） | 178 |
| ・形式3（運送業、自動車小売業、燃料小売業、自動車整備業） | 180 |
| ・形式4（医療機関） | 182 |
| 3. 調査票の記入要領・記入例、産業廃棄物分類表 | |
| ・形式1 | 184 |
| ・形式2（建設業） | 186 |
| ・形式3（運送業、自動車小売業、燃料小売業、自動車整備業） | 188 |
| ・形式4（医療機関） | 190 |
| ・形式5（鉱業） | 192 |
| ・形式6（水道業） | 194 |
| 5. 産業廃棄物等の処理等に関する意識調査票（全業種共通） | 196 |
| 6. その他 | |
| ・将来計画に関するアンケート票（電気業用） | 198 |
| ・将来計画に関するアンケート票（上水業用） | 198 |
| ・将来計画に関するアンケート票（下水業用） | 199 |

環 備 - 2 5 1
平成27年7月10日

調査対象事業者 様

秋田県知事 佐竹敬久



秋田県産業廃棄物実態調査について（依頼）

産業廃棄物行政の推進については、日頃から格別の御協力をいただき感謝申し上げます。

本県では、循環型社会の形成の推進を図るために第2次秋田県循環型社会形成推進基本計画に基づき各種施策を進めているところですが、新たに第3次計画の策定に必要な産業廃棄物の発生量及び処理方法等を把握するため、県内で排出される産業廃棄物の発生及び処理・処分の状況を調査することとしました。

ついては、貴事業所を調査対象とさせていただきましたので、御多忙のところ誠に恐縮ですが、趣旨を御理解いただき、別紙調査票に記入の上、同封した返信用封筒により、平成27年8月7日（金）までに返送して下さるようお願いいたします。

御回答いただいた内容については、統計的に処理するものであり、会社名や個人を公表することは一切ありません。

なお、本調査の内容は「産業廃棄物管理票（マニフェスト）交付状況等報告書」や「産業廃棄物多量排出事業者の処理計画書・実施状況報告書」等の各種報告の内容と一部重複しますが、調査に必要な項目ですので、御協力くださるようお願いいたします。

また、本調査は、一般財団法人日本環境衛生センターに委託して実施しますので、記入方法等で御不明な点がございましたら、次に記載されている同センターまでお問い合わせください。

（委託調査機関）

一般財団法人日本環境衛生センター

〒210-0828 神奈川県川崎市川崎区四谷上町11-15

TEL：044-287-3280

※調査票等は同センターのホームページからダウンロードすることができます。

(<http://www.jesc.or.jp/info/hik/download.html>)

（調査実施主体）

秋田県生活環境部 環境整備課 廃棄物対策班

〒010-8570 秋田市山王4丁目1-1

TEL：018-860-1624

調査票番号

右記の<記入注意事項>をご確認の上、調査票に記入して下さい

| | | | |
|---|---------------------------------------|-------------------------|-----|
| 事業所の概要 | 事業所名 | (業種) | |
| | 所在地 | 事業内容 | |
| 代表者(事業所長)氏名 | 記入者(部署、氏名) | (主要製品又は商品) | |
| 記入年月日 | 平成 年 月 日 | 電話番号 | - - |
| 従業員数 | 製造品出荷額等(製造業のみ記入) | 事業所の形態 | |
| 事業所の平成27年3月31日現在の従業員数(パート等の臨時職員及び役員等を含む)を記入して下さい。 | 平成26年4月1日～平成27年3月31日までの1年間の額を記入して下さい。 | 貴事業所の形態に対する番号に○を付けて下さい。 | |
| 千 百 十 千 百 十 千 百 十 | 千 百 十 千 百 十 千 百 十 | 1. 工場・作業所・鉱業所 | |
| 億 億 億 億 億 億 億 億 | 万 万 万 万 万 万 万 万 | 2. 開発研究 | |
| 人 | 万円/年 | 3. 事務所 | |
| | | 4. その他 () | |

次へ

1. 発生した。

2. 発生しなかった。

次へ

上記の「事業所の概要」を記入し、ご返送下さい。

平成26年度に貴事業所から発生した産業廃棄物等は平成21年度と比較して、どの様に变化しましたか。該当する番号に○を付けて下さい。

1. 大きく増加した。 2. やや増加した。 3. 変化していない。 4. やや減少した。 5. 大きく減少した。 6. その他・不明。

上記で1又は5と回答された方は、その理由をご記入下さい

廃棄物等の量的変化

処理施設の状況

貴事業所から発生した産業廃棄物等を事業所内で焼却していますか。該当する番号に○を付けて下さい。

1. 焼却している(熱利用していない) 2. 焼却していない(熱利用している) 0. 焼却していない

貴事業所から発生した産業廃棄物等(汚泥)を事業所内で脱水していますか。該当する番号に○を付けて下さい。

1. 脱水している 0. 脱水していない

裏面の調査票(その2)に貴事業所から発生する産業廃棄物等の状況について記入して下さい。

<記入注意事項>

1. 全般的事項

○本調査は、事業活動によって発生する産業廃棄物・特別管理産業廃棄物・有償あるいは無償で引渡している副産物が対象となります。

○本調査の対象期間は平成26年度(平成26年4月1日～平成27年3月31日)です。

○本調査は事業所単位で行いますので、調査票が送付された事業所に関して以下の質問にお答え下さい。そのため、貴事業所以外に貴社の本社、工場等があってもそれは調査の対象となりません。

○調査票(その2)に貴事業所から発生する産業廃棄物等の状況について、記入して下さい。

○産業廃棄物等が調査の対象期間中に何も発生しなかった場合は、本調査票(その1)の「事業所の概要」欄をご回答の上、ご返送下さい。

○調査票の電子データは、日本環境衛生センターのホームページからダウンロードできます。

<http://www.jesc.or.jp/info/hik/download.html>

2. 調査票(その1)

○従業員数は平成27年3月31日現在としていますが、この時期での集計が難しい場合は、なるべく近い時期の従業員数を記入して下さい。

○製造品出荷額等とは、「製造品出荷額」、「加工費収入額」、「修理料収入額」、「製造工程から出たくず及び廃物」の出荷額と「その他の収入額」の合計で、消費税等の内国消費税を含んだ額です。ただし、調査票が送付された事業所の形態が本社事務のみ、事務所、営業所、配送センター及び販売所等であって、実際に製造、加工及び修理等を行っていない場合は、「0(ゼロ)」を記入して下さい。

○製造品出荷額等は、平成26年度(平成26年4月1日～平成27年3月31日)としていますが、この時期での集計が難しい場合は、なるべく近い時期の一年間の金額を記入して下さい。

3. 調査票(その2・裏面)

○自ら再生利用したもの、他者に売却したものの、無償で引き渡しているものも対象となります。

○一般廃棄物は記入不要です(例:使用済みのOA用紙、新聞紙、雑誌、飲料の空缶・空きびん・ペットボトル、厨芥など)。

○別紙「調査票の記入要領・記入例」を参考に、産業廃棄物等の発生及び処理状況について記入して下さい。

○同じ産業廃棄物等でも、中間処理方法や処分先が違う場合は、行を分けて記入して下さい。

○発生量には、脱水や焼却など中間処理を行う前の量を記入して下さい。

産業廃棄物等に関する調査票(平成26年度実績)【その2】●別紙「調査票の記入要領・記入例」,「廃棄物等分類表」を参考に記入して下さい。●自社で発生した副産物(産業廃棄物、有償・無償引渡物)全てが対象となります。再生利用、売却をしている場合も記入して下さい。

①事業所で発生した廃棄物の名称
 事業所で日常使用している名称で記入して下さい。(別紙「廃棄物等分類表」に示した具体例を参照)

②廃棄物の分類番号
 別紙「廃棄物等分類表」をみて該当する4ケタの番号を記入して下さい。

③年間の発生量(中間処理する前の量)
 各行ごとに1年間の発生量を、乾物や除水などの中間処理をする前の量で記入して下さい。なお、単位は該当するものを選び、○で囲んで下さい。

④自社での中間処理方法
 自社で中間処理された場合は、該当する処理方法の記号を下記の「中間処理方法コード表」から選んで、中間処理の過程順に記入して下さい。

⑤中間処理後の量
 中間処理後の残量を記入して下さい。なお、単位は該当するものを選び、○で囲んで下さい。

⑥処理・処分方法
 再生(自社で中間処理した場合は、中間処理後の廃棄物)した廃棄物の処理・処分方法を下記の「処理・処分方法コード表」から選んで、その記号を記入して下さい。

⑦処理・処分先又は再生利用先の名称
 処理・処分(⑥に該当する)等を行なった先の名称を記入して下さい。

⑧処理・処分先又は再生利用先の所在地
 処理・処分(⑦に該当する)等を行なった処理・処分施設のある所在地を記入して下さい。

⑨委託中間処理の方法
 ⑥の「処理・処分方法」で「U」に回答された場合(中間処理を委託)は、委託先で中間処理された内容に該当する処理方法の番号を下記の「委託中間処理方法コード表」から選んで、中間処理の過程順に記入して下さい。

⑩委託中間処理後の再生利用・処分方法
 委託先で中間処理された後の廃棄物の処理方法に該当する番号を下記から選んで、その記号を○で囲んで下さい。

1. 再生利用・リサイクルしている。
 2. 埋立処分している。

⑪資源化の用途
 ⑥の「処理・処分方法」で「V」又は「R」又は「F」又は「G」又は「H」又は「I」又は「J」又は「K」又は「L」又は「M」又は「N」又は「O」又は「P」又は「Q」又は「R」又は「S」又は「T」又は「U」又は「V」又は「W」又は「X」又は「Y」又は「Z」から該当する番号を記入して下さい。

| 区分 F2 番 記 入 欄 | ①廃棄物の名称 | | | | ②分類番号 | | | | ③年間の発生量 | | | | ④方法番号 | | | | ⑤中間処理施設 | | | | | | | |
|------------------------------|-----------------|--|--|--|-------|--|--|--|---------|----------------|------|----------------|-------|--|--|--|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| | 自社で発生した廃棄物等の発生量 | | | | 単位 | | | | 単位 | | | | 単位 | | | | 単位 | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | kg t | m ³ | kg t | m ³ | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | kg t | m ³ | kg t | m ³ | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | kg t | m ³ | kg t | m ³ | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | kg t | m ³ | kg t | m ³ | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | kg t | m ³ | kg t | m ³ | | | | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | kg t | m ³ | kg t | m ³ | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | kg t | m ³ | kg t | m ³ | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | kg t | m ³ | kg t | m ³ | | | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | kg t | m ³ | kg t | m ³ | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | kg t | m ³ | kg t | m ³ | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | kg t | m ³ | kg t | m ³ | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | kg t | m ³ | kg t | m ³ | | | | | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | | kg t | m ³ | kg t | m ³ | | | | | | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | | | kg t | m ³ | kg t | m ³ | | | | | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | | kg t | m ³ | kg t | m ³ | | | | | | | | | | | | |

| 区分 F2 番 記 入 欄 | ①処理・処分先又は再生利用先の名称 | | | | ②処理・処分先又は再生利用先の所在地 | | | | ③方法番号 | | | | ④処理後の処分方法 | | | |
|------------------------------|-------------------|-----|--|--|--------------------|-----|--|--|----------------------|--|--|--|-----------|--|--|--|
| | 再生利用先又は再生利用先の所在地 | | | | 再生利用先又は再生利用先の所在地 | | | | 1次処理 2次処理 3次処理 | | | | 10資源化の用途 | | | |
| 1 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 2 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 3 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 4 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 5 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 6 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 7 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 8 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 9 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 10 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 11 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 12 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 13 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 14 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 15 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |

| 区分 F2 番 記 入 欄 | ①処理・処分先又は再生利用先の名称 | | | | ②処理・処分先又は再生利用先の所在地 | | | | ③方法番号 | | | | ④処理後の処分方法 | | | |
|------------------------------|-------------------|-----|--|--|--------------------|-----|--|--|----------------------|--|--|--|-----------|--|--|--|
| | 再生利用先又は再生利用先の所在地 | | | | 再生利用先又は再生利用先の所在地 | | | | 1次処理 2次処理 3次処理 | | | | 10資源化の用途 | | | |
| 1 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 2 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 3 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 4 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 5 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 6 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 7 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 8 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 9 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 10 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 11 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 12 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 13 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 14 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |
| 15 | 都道府県 | 市町村 | | | 都道府県 | 市町村 | | | | | | | | | | |

④中間処理方法コード表

A: 焼却 J: 溶融 R: ナトリウム
 B: 脱水 K: 切断 S: 動物糞
 C: 天日乾燥 L: 焙乾 T: 金属(鉄)回収
 D: 機械乾燥 M: 堆肥化(糞) U: 非鉄金属回収
 E: 油水分離 N: 炭回収 V: 蒸餾
 F: 中和 O: カリウム型化 W: 油化
 G: 破砕 P: 乾燥(減菌) X: 粒度調整・混合
 H: 分級 Q: 煮沸 Y: 分別・選別
 I: 圧縮 Z: その他

具体的に
 [10~93に該当するものがない場合、
 ⑪の枠中に具体的な用途を直接記入して下さい。]

⑥処理・処分方法コード表

<自己処理>
 V1: 自社で再利用した。
 V2: 売却できないものを自社で再利用した。
 W1: 売却(利益が残った)した。
 Z1: 自社で保管している。
 Q1: 自社の処分場で埋立処分した。

<産業廃棄物処理業者等へ委託処理>
 U1: 処理業者が中間処理(資源化・リサイクル)を委託した。
 X1: 廃品回収(資源)業者、あるいは納入業者、関連企業等で再生処理をした。
 S1: 民間の処理業者の処分場で直接埋立処理した。
 S2: 秋田県環境保全センターで直接埋立処理した。
 T1: 処理業者で直接海洋投入した。

⑨委託中間処理方法コード表

A: 焼却 J: 溶融 R: ナトリウム
 B: 脱水 K: 切断 S: 動物糞
 C: 天日乾燥 L: 焙乾 T: 金属(鉄)回収
 D: 機械乾燥 M: 堆肥化(糞) U: 非鉄金属回収
 E: 油水分離 N: 炭回収 V: 蒸餾
 F: 中和 O: カリウム型化 W: 油化
 G: 破砕 P: 乾燥(減菌) X: 粒度調整・混合
 H: 分級 Q: 煮沸 Y: 分別・選別
 I: 圧縮 Z: その他

具体的に
 [10~93に該当するものがない場合、
 ⑪の枠中に具体的な用途を直接記入して下さい。]

⑪資源化用途コード表

10: 鉄鋼原料
 20: 非鉄金属等原料
 30: 燃料
 40: 木材
 50: 再生土・再生骨材
 60: 再生土・再生骨材
 70: カラス骨材
 80: フラスコ原料
 90: セメント原料
 91: 再生土・再生骨材
 92: 中和剤
 93: 高炉用石膏
 98: その他

具体的に
 [10~93に該当するものがない場合、
 ⑪の枠中に具体的な用途を直接記入して下さい。]

産業廃棄物等に関する調査票(平成26年度実績)【その2】●別紙「調査票の記入要領・記入例」,「廃棄物等分類表」を参考に記入して下さい。再生利用、売却をしている場合も記入して下さい。

①事業所で発生した廃棄物の名称
 貴事業所で日常使用している名称で記入して下さい。(別紙「廃棄物等分類表」に示した具体例を参照)

②廃棄物の分類番号
 別紙「廃棄物等分類表」をみて該当する4ケタの番号を記入して下さい。

③年間の発生量(中間処理する前の量)
 各行ごとに1年間の発生量を、乾物や除水などの中間処理をする前の量で記入して下さい。なお、単位は該当するものを選び、○で囲んで下さい。

④自社での中間処理方法
 自社で中間処理された場合は、中間処理後の廃棄物した廃棄物の処理・処分方法を下欄の「処理・処分方法コード表」から選んで、中間処理の過程順に記入して下さい。

⑤中間処理後の量
 中間処理後の残存量を記入して下さい。なお、単位は該当するものを選び、○で囲んで下さい。

⑥処理・処分方法
 再生(自社で中間処理した場合)、中間処理後の廃棄物した廃棄物の処理・処分方法を下欄の「処理・処分方法コード表」から選んで、その記号を記入して下さい。

⑦処理・処分又は再生利用先の名称
 処理・処分(⑥に該当する)等を行った先の名称を記入して下さい。

⑧処理・処分又は再生利用先の所在地
 処理・処分(⑦に該当する)等を行った処理・処分施設の所在所在地を記入して下さい。

⑨委託中間処理の方法
 ⑥の「処理・処分方法」で「U」に回答された場合(中間処理を委託)は、委託先で中間処理された内容に該当する処理方法の番号を下欄の「委託中間処理方法コード表」から選んで、中間処理の過程順に記入して下さい。

⑩委託中間処理後の再生利用・処分方法
 委託先で中間処理された後の廃棄物の処理方法に該当する番号を下記から選んで、その記号を○で囲んで下さい。
 1. 再生利用・リサイクルしている。
 2. 埋立処分している。

⑪資源化の用途
 ⑥の「処理・処分方法」で「V」又は「R」に回答された場合、下欄の「資源化用途コード表」から該当する番号を記入して下さい。

| 区分 | 自社で発生した廃棄物等の発生量 | | | | 自社での中間処理 | | | | 自社処分・自社再生利用、委託処理 | | 委託中間処理 | | 自社・委託での資源化 | |
|----|-----------------|---------|--------|-------|----------|----------|------------------|-------------------|------------------|-----------|--------|--------|------------|--|
| | ①廃棄物の名称 | ②分類番号 | ③年間発生量 | ④方法番号 | ⑤中間処理後量 | ⑥処理・処分方法 | ⑦処理・処分又は再生利用先の名称 | ⑧処理・処分又は再生利用先の所在地 | ⑨方法番号 | ⑩処理後の処分方法 | ⑪資源化用途 | ⑫資源化用途 | | |
| F2 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 洗車汚泥 | 0 2 2 1 | kg t | | | | 都道府県 | 市町 | | | 1・2 | | | |
| 2 | 廃油(エンジンオイル) | 0 3 1 1 | kg t | | | | 都道府県 | 市町 | | | 1・2 | | | |
| 3 | 使用済みタイヤ(大型車) | 0 6 2 5 | kg t | | | | 都道府県 | 市町 | | | 1・2 | | | |
| 4 | 使用済みタイヤ(普通・小型車) | 0 6 2 6 | kg t | | | | 都道府県 | 市町 | | | 1・2 | | | |
| 5 | 紙くず(箱くず) | 1 2 1 0 | kg t | | | | 都道府県 | 市町 | | | 1・2 | | | |
| 6 | 廃プラスチック | 0 6 1 0 | kg t | | | | 都道府県 | 市町 | | | 1・2 | | | |
| 7 | ガラスくず | 1 3 1 0 | kg t | | | | 都道府県 | 市町 | | | 1・2 | | | |
| 8 | 揮発油 | 0 3 1 8 | kg t | | | | 都道府県 | 市町 | | | 1・2 | | | |
| 9 | 使用済みバッテリー | 3 5 0 0 | kg t | | | | 都道府県 | 市町 | | | 1・2 | | | |
| 10 | クーラント液(LLC) | 0 5 0 1 | kg t | | | | 都道府県 | 市町 | | | 1・2 | | | |
| 11 | | | kg t | | | | 都道府県 | 市町 | | | 1・2 | | | |
| 12 | | | kg t | | | | 都道府県 | 市町 | | | 1・2 | | | |
| 13 | | | kg t | | | | 都道府県 | 市町 | | | 1・2 | | | |
| 14 | | | kg t | | | | 都道府県 | 市町 | | | 1・2 | | | |
| 15 | | | kg t | | | | 都道府県 | 市町 | | | 1・2 | | | |

④中間処理方法コード表

A: 焼却 J: 溶融 R: ナトリウム
 B: 脱水 K: 切断 S: 製油残渣
 C: 天日乾燥 L: 焼成 T: 金属(鉄)回収
 D: 機械乾燥 M: 堆肥化(糞) U: 非鉄金属回収
 E: 油水分離 N: 炭回収 V: 濃縮
 F: 中和 O: 油/水/固型化 W: 油化
 G: 破砕 P: 乾燥調整 X: 粒度調整・混合
 H: 分級 Q: 乾燥 Y: 分別・選別
 I: 圧縮 Z: その他

↓
 具体的に

⑥処理・処分方法コード表

<自己処理>
 V1: 自社で再利用した。
 V2: 売却できないものを自社で再利用した。
 W1: 売却(利益が残った)した。
 Z1: 自社で保管している。
 Q1: 自社の処分場で埋立処分した。
 <産業廃棄物処理業者等へ委託処理>
 U1: 処理業者に中間処理(資源化・リサイクル)を委託した。
 X1: 廃品回収(資源)業者、あるいは輸入業者、関連企業等で再生処理をした。
 S1: 民間の処理業者の処分場で直接埋立処理した。
 S2: 秋田県環境保全センターで直接埋立処理した。
 T1: 処理業者で直接埋立処理した。

⑨委託中間処理方法コード表

A: 焼却 J: 溶融 R: ナトリウム
 B: 脱水 K: 切断 S: 製油残渣
 C: 天日乾燥 L: 焼成 T: 金属(鉄)回収
 D: 機械乾燥 M: 堆肥化(糞) U: 非鉄金属回収
 E: 油水分離 N: 炭回収 V: 濃縮
 F: 中和 O: 油/水/固型化 W: 油化
 G: 破砕 P: 乾燥調整 X: 粒度調整・混合
 H: 分級 Q: 乾燥 Y: 分別・選別
 I: 圧縮 Z: その他

↓
 具体的に

⑪資源化用途コード表

10: 雑質原料
 20: 非鉄金属等原料
 30: 燃料
 40: 肥料・堆肥
 50: 再生土・再生石
 60: 再生紙・再生プラスチック原料
 70: ガラス原料
 80: フラッシュ原料
 90: 再生繊維
 91: 再生紙・再生プラスチック原料
 92: 中和剤
 93: 高炉還元剤
 94: 建設資材
 95: 再生木材・合板
 96: その他

↓
 具体的に

10~93に該当するものがない場合、
 ⑪の枠中に具体的な用途を直接記入して下さい。

産業廃棄物等に関する調査票(平成26年度実績)【その1】

形式4

秋田県

医療機関

調査票番号

右記の<記入注意事項>をご確認の上、調査票に記入して下さい

| | | | | | |
|--|------------|------|-----|---|---|
| 事業所名 | 事業内容・診療科目 | | | | |
| 所在地 | | | | | |
| 代表者(事業所長)氏名 | 記入者(部署、氏名) | | | | |
| 記入年月日 | 平成 年 月 日 | 電話番号 | - | - | - |
| 事業所の概要 | | 従業員数 | 病床数 | | |
| 事業所の平成27年3月31日現在の従業員数(パート等の臨時職員及び役員等を含む)を記入して下さい。 事業所の平成27年3月31日現在の病床数を記入して下さい。 | | | | | |
| 人 | 人 | 床 | | | |



平成26年度の1年間に産業廃棄物等は発生しましたか。該当する番号に○を付けて下さい。
 ※再生利用された物、有償等で引き渡している副産物も対象として下さい。

1. 発生した。 2. 発生しなかった。



上記の「事業所の概要」を記入し、ご返送下さい。

次へ



<記入注意事項>

1. 全般的事項
 - 本調査は、事業活動によって発生する産業廃棄物・特別管理産業廃棄物(感染性産業廃棄物)、有償あるいは無償で引渡ししている副産物が対象となります。
 - 本調査の対象期間は平成26年度(平成26年4月1日～平成27年3月31日)です。
 - 本調査は事業所単位で行いますので、調査票が送付された事業所に関して質問にお答え下さい。そのため、貴事業所以外の関連施設等があっても、それは調査の対象となりません。
 - 調査票(その2)に貴事業所から発生する産業廃棄物等の状況について、記入して下さい。
 - 産業廃棄物等が調査の対象期間中に何も発生しなかった場合は、本調査票(その1)の「事業所の概要」欄をご回答の上、ご返送下さい。
 - 調査票の電子データは、日本環境衛生センターのホームページからダウンロードできます。
<http://www.jescor.jp/info/hik/download.html>
2. 調査票(その1)
 - 従業員数、病床数は平成27年3月31日現在としていますが、この時期での集計が難しい場合は、なるべく近い時期の従業員数、病床数を記入して下さい。
3. 調査票(その2・裏面)
 - 自ら再生利用したもの、他者に売却したもの、無償で引き渡しているものも対象となります。
 - 一般廃棄物は記入不要です(例:使用済みのOA用紙、新聞紙、雑誌、飲料の空缶・空きびん・ペットボトル、厨芥など)。
 - 別紙「調査票の記入要領・記入例」を参考に、産業廃棄物等の発生及び処理状況について記入して下さい。
 - 同じ産業廃棄物等でも、中間処理方法や処分先が違えば、行を分けて記入して下さい。
 - 発生量には、脱水や焼却など中間処理を行う前の量を記入して下さい。

裏面の調査票(その2)に貴事業所から発生する産業廃棄物等の状況について記入して下さい。

裏面へ



調査票の記入要領・記入例

調査対象期間

- この調査の調査期間は、平成26年4月1日～平成27年3月31日です。この期間中の廃棄物の発生と処理・処分の状況を質問①～④までお答えください。

調査対象とする事業所と廃棄物

- この調査では、**県内で施工した工事から発生した廃棄物等**だけが記入の対象となります。
- 廃棄物がどのように分類されているかを示すために、裏面に「**廃棄物等分類表**」がご用意しておりますので参考にしてください。

発生量について

- 発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「**焼却**」、「**脱水**」等の処理を行う前の「**名称**」と「**数量**」をお答え下さい。
- 自社で焼却している場合**、発生した廃棄物には**焼却前のもの**です。(記入例Cを参考にしてください)
- 木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合**の「③年間発生量」は、**焼却前の量**です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、**焼却前の名称**と分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理量」となります。
- 自社で脱水している場合**の発生した廃棄物には**脱水前のもの**です。(記入例Eを参考にしてください)
- 汚泥の発生量**は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式より計算して下さい。

$$\text{式} : (\text{脱水前の汚泥発生量}) \times (100\% - \text{脱水後の含水率}) \div (100\% - \text{脱水後の含水率})$$
- ただし、以下のものは、中間処理後のものを発生量としてお答え下さい。
 ○**腐敗、嫌アルカリを公共水域(河川、公共下水道等)へ放流するために中間処理した場合** → 中間処理後の「汚泥」を発生量とします。
 ○**油濁水を油水分離した場合** → 油水分離後の「廃油」と「油でい」等を個別に(それぞれ1行ずつ)発生量とします。

調査票(その2)の記入例

式々の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考にしてください。

| 区分 F 行番 | ①廃棄物の名称 | ②分類番号 | ③年間発生量 | | | | ④中間処理量 | ⑤方法番号 | ⑥処理・処分方法又は再生利用先の所在地 | ⑦方法番号 1次処理 2次処理 3次処理 | ⑧処理後の処分方法 | ⑨資源化用途 |
|---------------|--------------|-------|--------|---|---|---|--------|-------|---------------------|-------------------------------|-----------|--------|
| | | | 百 | 十 | 千 | 万 | | | | | | |
| 記入例:A | 1 鉄筋くず | 12 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 秋田 市 | 1 | 2 | 10 |
| 記入例:B | 2 木くず | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 男鹿 市 | 1 | 2 | 30 |
| 記入例:C | 3 廃プラスチック | 0 | 6 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 大潟 町 | 1 | 2 | 30 |
| 記入例:D | 4 廃プラスチック | 0 | 6 | 1 | 0 | 5 | 0 | 1 | 能代 市 | 1 | 2 | 30 |
| 記入例:E | 5 ベントナイト汚泥 | 0 | 2 | 2 | 0 | 6 | 0 | 0 | 福島県 郡山 市 | 1 | 2 | 1.2 |
| 記入例:F | 6 コンクリートのがれき | 1 | 5 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 仙北 市 | 1 | 2 | 50 |
| 欄 | 8 | 1 | 5 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 小坂 町 | 1 | 2 | 50 |

本紙の裏面に「産業廃棄物等分類表」を参照して下さい。

該当する単位に、必ず〇をつけて下さい。

記入について

- 記入対象は、事業活動によって発生する産業廃棄物、有価あるいは無償で引渡している副産物です。**
- 同じ種類の廃棄物でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問⑧の欄から行を分けて記入して下さい。**
- 処理業者へ処理、処分を委託している場合は、マニフェスト伝票等を参考に記入して下さい。不明な点は、具体的な内容を処理業者に確認したうえで記入して下さい。**

④中間処理方法コード表

- A: 焼却
B: 脱水
C: 天日乾燥
D: 天日焼却
E: 油水分離
F: 中和
G: 中和
H: 圧縮
I: 圧縮
J: 圧縮
K: 圧縮
L: 焼却(セメント原料)
M: 焼却(焼却)
N: 焼却(焼却)
O: カナリイグループ
P: 乾熱減量
Q: 乾熱減量
R: 乾熱減量
S: 乾熱減量
T: 乾熱減量
U: 乾熱減量
V: 乾熱減量
W: 乾熱減量
X: 乾熱減量
Y: 乾熱減量
Z: その他

⑥処理・処分方法コード表

- V1: 自社で再使用した。
V2: 売却できないものを自社で再使用した。
W1: 売却(利益があった)した。
Z1: 自社で保管している。
Q1: 自社別荘で埋立処分した。
U1: 処理業者が中間処理(焼却、焼却、あるいは焼却)を委託し、焼却(焼却)した。
X1: 焼却(セメント原料)を委託し、焼却(焼却)した。
S1: 焼却(セメント原料)を委託し、焼却(焼却)した。
S2: 焼却(セメント原料)を委託し、焼却(焼却)した。
T1: 処理業者が中間処理(焼却)を委託し、焼却(焼却)した。
R1: 処理業者が中間処理(焼却)を委託し、焼却(焼却)した。
RS: 処理業者が中間処理(焼却)を委託し、焼却(焼却)した。
R6: 処理業者が中間処理(焼却)を委託し、焼却(焼却)した。
Z9: その他

①資源化用途コード表

- 10: 鉄筋
20: 非鉄金属等
30: 燃料
41: 木材
42: 肥料・肥田
43: 肥料・肥田
44: 肥料・肥田
45: 肥料・肥田
46: 肥料・肥田
47: 肥料・肥田
48: 肥料・肥田
49: 肥料・肥田
50: 肥料・肥田
51: 肥料・肥田
52: 肥料・肥田
53: 肥料・肥田
54: 肥料・肥田
55: 肥料・肥田
56: 肥料・肥田
57: 肥料・肥田
58: 肥料・肥田
59: 肥料・肥田
60: 肥料・肥田
61: 肥料・肥田
62: 肥料・肥田
63: 肥料・肥田
64: 肥料・肥田
65: 肥料・肥田
66: 肥料・肥田
67: 肥料・肥田
68: 肥料・肥田
69: 肥料・肥田
70: 肥料・肥田
71: 肥料・肥田
72: 肥料・肥田
73: 肥料・肥田
74: 肥料・肥田
75: 肥料・肥田
76: 肥料・肥田
77: 肥料・肥田
78: 肥料・肥田
79: 肥料・肥田
80: 肥料・肥田
81: 肥料・肥田
82: 肥料・肥田
83: 肥料・肥田
84: 肥料・肥田
85: 肥料・肥田
86: 肥料・肥田
87: 肥料・肥田
88: 肥料・肥田
89: 肥料・肥田
90: 肥料・肥田
91: 肥料・肥田
92: 肥料・肥田
93: 肥料・肥田
94: 肥料・肥田
95: 肥料・肥田
96: 肥料・肥田
97: 肥料・肥田
98: 肥料・肥田
99: 肥料・肥田
00: 肥料・肥田

⑩処理後の処分方法
1. 再生利用/リサイクルしている
2. 埋立処分している

記入例:A

- ・工事現場から鉄筋くずが年間9t発生したが、すべて、秋田市の株式会社Aに売却した。
- ・相手先では、鉄鋼材として再生利用している。

記入例:B

- ・工事現場から建設木くずが年間2t車で30t発生したが、1台当たりの重量が1t程度であるため、重量に換算すると、30tである。
- ・これは、男鹿市にある株式会社Bに売却した。
- ・相手先では、破砕チップ化し、燃料として再生利用している。

記入例:C

- ・工事現場から廃プラスチックが年間10t発生した。
- ・すべて自社の焼却炉で焼却した。その灰の量は年間1t程度であり、大潟町にある株式会社Cの処分場で埋立処分した。

記入例:D

- ・工事現場から廃プラスチックが年間5m³発生した。
- ・これは、能代市にある株式会社Dに売却した。
- ・委託先では圧縮して固形燃料を製造している。

記入例:E

- ・工事現場からベントナイト汚泥が発生したが、すべて工事現場内で脱水した。
- ・脱水後の汚泥量は、100t(含水率70%)であった。
- ・脱水前の量は、計量していないので正確でないが、脱水前の含水率が95%であるため計算すると600tとなる。
- ・処理後の汚泥は、株式会社Eに委託し、福島県郡山市内に管理型処分場を保有する株式会社Eで埋立処分した。
- ・計算式 100t × (100-70) ÷ (100-95) = 600t

記入例:F

- ・工事現場からコンクリートのがれき等が10tダンブで12台発生した。重量に換算すると120t程度である。
- ・このうち、10tは、株式会社Fに委託し、仙北市に処分場を保有する株式会社Fに処分した。
- ・残りの10tは、小坂町に破砕プラントを保有する株式会社Gに委託し、株式会社Gは破砕後、骨材として再生利用している。

ここでは、中間処理、再生利用や最終処分した先の名称を記入して下さい。委託した廃棄物が中間処理後に最終処分されている場合は、中間処理業者の名称を記入して下さい。

<調査票の記入要領・記入例>

調査対象期間
 ●この調査の調査期間は、平成26年度（平成26年4月1日～平成27年3月31日）です。この期間中の廃棄物の発生と処理・処分の状況を、質問①～⑧までの流れに従って記入して下さい。

調査対象とする事業所と廃棄物
 ●この調査では、**調査票が送付された事業所内で発生した廃棄物等**だけが記入の対象となります。
 ●廃棄物がどのように分類されているかを示すために、裏面に「**廃棄物等分類表**」が**ありますので参考にして下さい**。

発生量について
 ●発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「**焼却**」、「**脱水**」等の処理を行う前の「**名称**」と「**数量**」をお答え下さい。
自分で焼却している場合、発生した廃棄物には「**焼却前のもの**」です。（記入例にを参考にしてください）
木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、
 焼却や身前の名称とその分類番号となりまます。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。

自分で脱水している場合の発生した廃棄物には「**脱水前のもの**」です。
 汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式より計算して下さい。
<式>：（脱水前の汚泥発生量）＝（脱水後の汚泥量）×（100％-脱水後の含水率％）÷（100％-脱水前の含水率％）

●ただし、以下のものについては、中間処理後のものを発生量としてお答え下さい。
 ○廃水、廃アルカリを公共排水（河川、公共下水道等）へ放流するために中和処理した場合。 → 中和処理後の「汚泥」を発生量とします。
 ○含油廃水を油水分離した際。 → 油水分離後の「廃油」と「油でい」等を個別に（それぞれ1行ずつ）発生量とします。

調査票(その2)の記入例

太字の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考に調査票(その2)を記入して下さい。

本紙の裏面の「**廃棄物等分類表**」を参照して下さい。
 数量又は液状廃棄物を焼却し、焼却灰が1kg未満の場合は、「0」を記入し、単位はkgに○を付けて下さい。

| 区分 | F 行 | ①廃棄物の名称 | ②分類番号 | ③年間発生量 | | | | ④中間処理後量 | ⑤処理・処分の方法 | ⑥処理・処分先又は再生利用先の所在地 | ⑦方法番号 | ⑧焼却後の処分方法 | ⑨資源化用途 |
|-------|--------|-----------------|-------|--------|---|---|---|---------|-----------|--------------------|----------|-----------|--------|
| | | | | 百 | 十 | 千 | 百 | | | | | | |
| 記入例：A | 1 | 洗濯汚泥 | 0221 | 0 | 2 | 2 | 1 | — | — | U1 | △△焼 | — | — |
| 記入例：B | 2 | 廃油（エンジンオイル） | 0311 | 0 | 3 | 1 | 1 | — | — | U1 | □□焼 | — | — |
| 記入例：C | 3 | 使用済みタイヤ（大型車） | 0625 | 0 | 6 | 2 | 5 | 5 | 0 | W1 | ××焼 | — | — |
| 記入例：D | 4 | 使用済みタイヤ（軽車・小型車） | 0626 | 0 | 6 | 2 | 6 | 1 | 0 | X1 | 〇〇タイヤ販売店 | — | — |
| 記入例：E | 5 | 鉄くず（部品くず） | 1210 | 1 | 2 | 1 | 0 | — | — | W1 | □□商店 | — | — |
| 記入例：E | 6 | 廃プラスチック | 0610 | 0 | 6 | 1 | 0 | 5 | 0 | S1 | ▽×焼 | — | — |
| 記入例：F | 7 | ガラスくず | 1310 | 1 | 3 | 1 | 0 | — | — | S1 | △△焼 | — | — |
| 欄 | 8 | | | | | | | | | | | | |

ここでは、中間処理、再生利用や最終処分先の名称を記入して下さい。委託した廃棄物が中間処理後に最終処分されている場合は、中間処理業者の名称を記入して下さい。

| | | | | | |
|--|---|--|--|--|---|
| <p>記入例：A</p> <ul style="list-style-type: none"> 分離槽の清掃を▽△焼に委託している。 業者に問い合わせたところ、汚泥分として年間3t未満あり、秋田市にある△△焼の脱水施設で中間処理されていることである。 中間処理後は埋立処分しているとのことである。 | <p>記入例：B</p> <ul style="list-style-type: none"> 月にドラム缶1本ぐらいの廃油が発生した。 年間の発生量を計算すると2,400kgである。 鹿角市の□□焼に処理を委託した。 □□焼では油水分離後燃料として再生利用している。 | <p>記入例：C</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間に使用済みタイヤが150本発生した。 このうち大型タイヤの50本は、にかほ市にある××に販売した。 普通車用タイヤ100本は藤里町にある〇〇タイヤ販売店が下取りした。 廃タイヤはどちらも再生タイヤに利用されている。 | <p>記入例：D</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動車の修理の際には鉄くずが年間2t発生した。 宮城県仙台市にある□□商店に売却した。 相手先では、鉄鋼材料として再生利用している。 | <p>記入例：E</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃プラスチックが年間で500kg発生した。 その都度、自社の焼却炉で焼却した。 その灰の量は、およそ50kgで美細町に埋立処分場を保有する▽×焼で埋立処分した。 | <p>記入例：F</p> <ul style="list-style-type: none"> ガラスくずが年間1t発生した。 〇〇産業に収集・運搬を委託した。 業者に問い合わせたところ、構内にある△△焼で埋立処分しているとのことである。 |
|--|---|--|--|--|---|

<調査票の記入要領・記入例>

調査対象期間

- この調査の調査期間は、平成26年度（平成26年4月1日～平成27年3月31日）です。この期間中の廃棄物の発生と処理・処分の状況を問題①～④までの流れに従って記入して下さい。

調査対象とする事業所と廃棄物

- この調査では、調査票が送付された事業所内で発生した廃棄物等だけが記入の対象となります。
- 廃棄物がどのように分類されているかを示すために、裏面に「廃棄物等分類表」がご用意しておりますので参考にして下さい。

発生量について

- 発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「焼却」、「脱水」、「焼却」と「数量」をお答え下さい。
 - 自社で焼却している場合、発生した廃棄物とは焼却前のものです。（記入例Bを参考にしてください）
 - 木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合は「3年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、焼却前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理量」となります。
- 自社で脱水している場合は、発生した廃棄物とは脱水前のものです。汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式より計算して下さい。

$$\text{<式>} : (\text{脱水前の汚泥発生量}) \times (100\% - \text{脱水後の含水率}) \div (100\% - \text{脱水前の含水率})$$

調査票(その2)の記入例

赤字の部分に、記入事例箇所を示しています。記入例を参考にしてください。

本紙の裏面に「産業廃棄物等分類表」を参照して下さい。

該当する単位に、必ず○をつけて下さい。

数量又は汚染性産業廃棄物を焼却し、焼却灰が1kg未満の場合は、「0(ゼロ)」を記入し、単位はkgに○を付けて下さい。

| 区分 F 行番 | ①産業廃棄物の名称 | ②分類番号 | | | | ③年間発生量 | ④中間処理量 | ⑤単位 | |
|---------------|-------------|----------|----------|----------|---------|--------|--------|-----|------------------|
| | | 1次 処理 | 2次 処理 | 3次 処理 | ⑥ 処理 | | | | |
| 記入例:A | 1 感染性産業廃棄物 | 2 | 0 | 1 | 8 | 1 | 2 | 0 | kg t |
| 記入例:B | 2 感染性産業廃棄物 | 2 | 0 | 1 | 8 | 3 | 7 | 0 | kg t |
| 記入例:C | 3 レントゲン定着廃液 | 0 | 4 | 0 | 2 | 4 | 0 | 0 | kg t |
| 記入例:D | 4 レントゲン現像廃液 | 0 | 5 | 0 | 2 | 3 | 0 | 0 | kg t |
| | 5 廃プラスチック | 0 | 6 | 1 | 0 | 8 | 0 | 0 | kg t |
| | 6 | | | | | | | | kg t |
| | 7 | | | | | | | | kg t |
| | 8 | | | | | | | | m ³ t |

| ⑦処理・処分方法 | ⑧処理・処分先又は再生利用先の所在地 | ⑨処理・処分先又は再生利用先の名称 | ⑩方法番号 | | | ⑪資源化用途 | |
|----------|--------------------|-------------------|----------|----------|----------|--------|---|
| | | | 1次 処理 | 2次 処理 | 3次 処理 | | |
| U1 | 〇〇産業 | 能代市 | A | | | 1 | 2 |
| S1 | △△工業㈱ | 秋田市 | | | | 1 | 2 |
| U1 | (株)〇× | 福島県 | | | | 1 | 2 |
| U1 | (株)〇× | 福島県 | | | | F | B |
| U1 | □▲商店 | 小坂市 | | | | A | |

ここでは、中間処理・再生利用や最終処分した先の名称を記入して下さい。委託した廃棄物が中間処理後に最終処分されている場合は、中間処理業者の名称を記入して下さい。

記入例:A

- ・当病院では、感染性産業廃棄物が年間1200リットル発生した。
- ・院内では処理せず、能代市に処理施設を保有する〇〇産業に委託し、焼却処理してもらった。
- ・焼却後の燃え殻は埋立処分していることである。

記入例:B

- ・当病院では、感染性産業廃棄物が年間3700kg発生した。
- ・院内の焼却炉で焼却し、その灰は250kgであった。
- ・灰は、秋田市に管理型の処分場を保有する△△工業㈱に委託し、埋立処分してもらった。

記入例:C

- ・レントゲン定着廃液が年間400kg発生し、定期的に取りに来る(株)〇×(福島県福島市)に処理を委託している。
- ・(株)〇×では、廃液から銀を回収しているようである。
- ・レントゲン現像廃液も年間300kg発生し同業者に処理を委託している。
- ・業者で中和処理後、脱水をして埋立処分をしている。

記入例:D

- ・当病院では、廃プラスチックが年間80kg発生した。
- ・院内では処理せず小坂町に処理施設を保有する□▲商店に委託し、焼却処理してもらった。
- ・焼却後の燃え殻は埋立処分していることである。

記入について

- 記入対象は、事業活動によって発生する産業廃棄物、有価あるいは無償で引渡している副産物です。
- 同じ種類の廃棄物でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問①の欄から行を分けて記入して下さい。
- 処理業者へ処理・処分を委託している場合は、マニフェスト伝票等を参考に記入して下さい。不明な点は、具体的な内容を処理業者に確認したうえで記入して下さい。

④中間処理方法コード表

- ④ 処理・処分方法コード表
- ＜自己処理＞
A: 焼却
B: 脱水
C: 天日乾燥
D: 機械乾燥
E: 油水分離
F: 液状化
G: 液状
H: 分級
I: 圧縮
J: 圧縮
K: 切取(セメント-副産物)
L: 固化(セメント-副産物)
M: 埋戻し(焼却)
N: 埋戻し(焼却)
O: 焼却
P: 粉砕
Q: 粉砕
R: オートクレーブ
S: 発酵
T: 発酵
U: 堆肥製造
V: 堆肥製造
W: 堆肥
X: 堆肥製造、混合
Y: 堆肥製造
Z: その他
- ⑤ 委託中間処理方法コード表
- A: 焼却
B: 脱水
C: 天日乾燥
D: 機械乾燥
E: 油水分離
F: 液状化
G: 液状
H: 分級
I: 圧縮
J: 圧縮
K: 切取(セメント-副産物)
L: 固化(セメント-副産物)
M: 埋戻し(焼却)
N: 埋戻し(焼却)
O: 焼却
P: 粉砕
Q: 粉砕
R: オートクレーブ
S: 発酵
T: 発酵
U: 堆肥製造
V: 堆肥製造
W: 堆肥
X: 堆肥製造、混合
Y: 堆肥製造
Z: その他
- ⑥ 処理・処分方法コード表
- ＜自己処理＞
A: 焼却
B: 脱水
C: 天日乾燥
D: 機械乾燥
E: 油水分離
F: 液状化
G: 液状
H: 分級
I: 圧縮
J: 圧縮
K: 切取(セメント-副産物)
L: 固化(セメント-副産物)
M: 埋戻し(焼却)
N: 埋戻し(焼却)
O: 焼却
P: 粉砕
Q: 粉砕
R: オートクレーブ
S: 発酵
T: 発酵
U: 堆肥製造
V: 堆肥製造
W: 堆肥
X: 堆肥製造、混合
Y: 堆肥製造
Z: その他
- ⑦ 処理・処分方法コード表
- ＜自己処理＞
A: 焼却
B: 脱水
C: 天日乾燥
D: 機械乾燥
E: 油水分離
F: 液状化
G: 液状
H: 分級
I: 圧縮
J: 圧縮
K: 切取(セメント-副産物)
L: 固化(セメント-副産物)
M: 埋戻し(焼却)
N: 埋戻し(焼却)
O: 焼却
P: 粉砕
Q: 粉砕
R: オートクレーブ
S: 発酵
T: 発酵
U: 堆肥製造
V: 堆肥製造
W: 堆肥
X: 堆肥製造、混合
Y: 堆肥製造
Z: その他
- ⑧ 処理・処分方法コード表
- ＜自己処理＞
A: 焼却
B: 脱水
C: 天日乾燥
D: 機械乾燥
E: 油水分離
F: 液状化
G: 液状
H: 分級
I: 圧縮
J: 圧縮
K: 切取(セメント-副産物)
L: 固化(セメント-副産物)
M: 埋戻し(焼却)
N: 埋戻し(焼却)
O: 焼却
P: 粉砕
Q: 粉砕
R: オートクレーブ
S: 発酵
T: 発酵
U: 堆肥製造
V: 堆肥製造
W: 堆肥
X: 堆肥製造、混合
Y: 堆肥製造
Z: その他
- ⑨ 委託中間処理方法コード表
- A: 焼却
B: 脱水
C: 天日乾燥
D: 機械乾燥
E: 油水分離
F: 液状化
G: 液状
H: 分級
I: 圧縮
J: 圧縮
K: 切取(セメント-副産物)
L: 固化(セメント-副産物)
M: 埋戻し(焼却)
N: 埋戻し(焼却)
O: 焼却
P: 粉砕
Q: 粉砕
R: オートクレーブ
S: 発酵
T: 発酵
U: 堆肥製造
V: 堆肥製造
W: 堆肥
X: 堆肥製造、混合
Y: 堆肥製造
Z: その他
- ⑩ 資源化用途
- 1: 再生利用
2: 3次処理
3: 処理

⑩ 処理後の処分方法
1: 再生利用・リサイクルしている
2: 埋立処分している

廃棄物を委託している場合は、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入して下さい。また、不定期の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入して下さい。

廃棄物等分類表(その1)

※爆発性、毒性、感染性、腐食性などの有害な性状を有している産業廃棄物は特別管理産業廃棄物として分類されます。

表1: 感染性廃棄物の分類表

| 種類 | 分類番号 | 具 体 例 |
|--------|------|---|
| 感染性廃棄物 | 2018 | 血液、血清、血漿、血漿、体液（精液を含む）、血液等が付着した鋭利なもの（注射針、メス、試験管、シャーレ、ガラスくず等）、血液等が付着した実験・手術用手袋等、病原微生物に関連した試験・検査等に用いられたもの（試験管、シャーレ等）、汚染物が付着した廃プラスチック類等 |

表2: 非感染性廃棄物分類表(産業廃棄物)

| 種類 | 分類番号 | 具 体 例 |
|-----------------------|------|--|
| 有機性汚泥 | 0211 | 焼垂や乗降客などの排水処理施設から発生する汚泥（し尿を含む浄化槽汚泥は除く） |
| 廃油 | 0311 | 冷凍機やポンプなどの潤滑油 |
| | 0312 | 入院患者の給食に使った食用油（天ぷら油等） |
| | 0320 | アルコール類、ケトン、洗浄油 |
| | 0340 | タンクスラッジ、オイルスラッジ、オイルトラップ汚泥、油性スカム |
| | 0350 | 油のしみたウエス、油紙くず、廃吸油材 |
| 廃酸 | 0401 | ホルマリン、その他の酸性の廃液 |
| | 0402 | レントゲン写真定着廃液 |
| 廃アルカリ性廃液 | 0501 | 検査廃液、その他のアルカリ性の廃液 |
| | 0502 | レントゲン写真現像液 |
| 廃プラスチック類 | 0610 | 合成樹脂製の器具、レントゲンフィルム、ビニールチューブ、その他の合成樹脂製のもの |
| ゴムくず | 1100 | 天然ゴムの器具類、ディスプレイの手袋など |
| 金属くず | 1210 | 鉄くず、スクラップ（主体が鉄製の場合）、プリキくず、トタンくず、空缶缶（鉄製のもの） |
| | 1220 | 銅線、銅くず、アルミくず、アルミ缶 |
| | 1230 | 自社にて分別を行わなかったものや分別不可能なもの |
| ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず | 1310 | 白熱電球、窓ガラス、びん類、ガラスウール、ガラス食器、光学レンズ、理化学用ガラス器具、薬品ビン |
| | 1320 | ガラス用石膏、陶磁器の器具、その他の陶磁器製のもの |
| 紙おむつ | 9080 | 紙おむつ（感染性でない判断したもの） |
| 混合物 | 2100 | 廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、かれき類のみを含む混合物で分別ができない廃棄物 |
| | 2200 | 廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、かれき類以外の廃棄物を含む混合物で分別ができない廃棄物 |
| 混合廃棄物 | 3000 | 廃自動車、廃二輪車 |
| | 3100 | プリント配線板、テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、パソコン、電話機、自動販売機、蛍光灯など |
| | 3500 | 鉛蓄電池（バッテリー）、乾電池 |
| | 3600 | 2つ以上の異なる素材が一体的に組み合わされている製品の廃棄物 |

廃棄物等分類表(その2)

表3: 非感染性廃棄物分類表(特別管理産業廃棄物)

| 種類 | 分類番号 | 具 体 例 |
|----------|------|---------------------------------|
| 引火性廃油 | 0318 | 揮発油類（ガソリン、灯油、軽油、シンナー、キシレン、エーテル） |
| 腐食性廃酸 | 0708 | 水素イオン濃度指数〔pH〕が2.0以下の廃液 |
| 腐食性廃アルカリ | 0508 | 水素イオン濃度指数〔pH〕が12.5以上の廃液 |
| 産特定有害廃棄物 | 0219 | 特定有害物質を含む汚泥 |
| | 0319 | 特定有害物質を含む廃油 |
| | 0409 | 特定有害物質を含む酸性廃液 |
| | 0509 | 特定有害物質を含むアルカリ性廃液 |
| | 1609 | 特定有害物質を含むばいじん |
| 廃PCB | 7419 | 廃PCB等、POB汚染物、PCB処理物 |

<調査票の記入要領・記入例>

調査対象期間

●この期間の対象期間は、平成26年度（平成26年4月1日～平成27年3月31日）の1年間です。この期間中の廃棄物の発生と処理・処分状況を質問①～④までの流れに従って記入して下さい。

調査対象とする事業所と廃棄物

- この調査では、調査票が送付された事業所で管理する砂利採取場及び採石場・採掘場から発生する砂利洗浄汚泥や砕石くず等の産業廃棄物が対象となります。
- 外割に委託処理せず、現場で埋め戻し等している場合も対象となります。発生量や処分量について記入して下さい。
- 廃棄物がどのように分類されているかを示すために、裏面に「廃棄物等分類表」を掲げてありますので参考にして下さい。

発生量について

- 発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「焼却」、「脱水」、「乾燥」をお答え下さい。
- 自社で焼却している場合、発生した廃棄物とは「焼却前のもの」です。
水くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合は「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理量」となります。
- 自社で脱水・乾燥している場合は発生した廃棄物とは「脱水前・乾燥前のもの」です。（記入例A・Bを参考にして下さい）
汚泥の発生量は、脱水・乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を想定していない場合は、下記の式より計算して下さい。

$$\text{③年間発生量} = (\text{脱水前の汚泥発生量}) \times (100\% - \text{脱水後の含水率}) \div (100\% - \text{脱水前の含水率})$$

調査票(その2)の記入例

太子の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考に記入して下さい。

本紙の裏面の「産業廃棄物等分類表」を参照して下さい。

該当する単位に、必ず〇をつけて下さい。

数量又は液状廃棄物を焼却し、焼却灰が1kg未満の場合は、「0(ゼロ)」を記入し、単位はkgに〇をつけて下さい。

| 区分 | F 2 | ①産業廃棄物の名称 | ②分類番号 | ③年間発生量 | | | | ④方法番号 | ⑤中間処理量 | ⑥処理・処分先又は再生利用先の名称 | ⑦処理・処分先又は再生利用先の所在地 | ⑧処理後の処分方法 | ⑨資源化用途コード表 |
|-------|--------|-----------|-------|--------|---|---|---|-------|--------|-------------------|--------------------|-----------|------------|
| | | | | 百万 | 千 | 百 | 十 | | | | | | |
| 記入例：A | | 1-砂利洗浄汚泥 | 0221 | 0 | 2 | 1 | 0 | kg | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 記入例：B | | 2-砂利洗浄汚泥 | 0221 | 0 | 2 | 1 | 0 | kg | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 記入例：C | | 3-砕石くず | 1403 | 1 | 4 | 0 | 3 | kg | 1 | 5 | 0 | 0 | 1 |
| 入欄 | 4 | | | | | | | kg | 2 | | | | |
| | 5 | | | | | | | kg | 2 | | | | |
| | 6 | | | | | | | kg | 2 | | | | |
| | 7 | | | | | | | kg | 2 | | | | |
| | 8 | | | | | | | kg | 2 | | | | |

記入例：A

- ・砂利採取により汚泥が年間1,100t発生した。
- ・自社で天日乾燥処理を行い、乾燥後の量が800tであった。
- ・処理後の汚泥は、固化処理をした後に埋め戻し材として再利用した（採取跡地に埋め戻した）。

記入例：B

- ・砂利採取により汚泥が年間4,900t発生した。
- ・自社で脱水処理を行い、脱水後の量が2,300tであった。
- ・処理後の汚泥は、固化処理をした後に埋め戻し材として再利用した（採取跡地に埋め戻した）。

記入例：C

- ・砕石くずが年間5t発生した。
- ・これは、宮城県の舗××に処理を委託した。
- ・委託先では、破碎処理後、建設資材として再利用している。

ここでは、中間処理、再生利用や最終処分した先の名称を記入して下さい。委託した廃棄物が中間処理後に最終処分されている場合は、中間処理業者の名称を記入して下さい。

記入について

- 記入対象は、事業活動によって発生する産業廃棄物、有償あるいは無償で引渡している副産物です。
- 同じ種類の廃棄物でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問⑩の欄から行を分けて記入して下さい。
- 処理業者へ処理・処分を委託している場合は、マニフェスト伝票等を参考に記入して下さい。不明な点は、具体的な内容を処理業者に確認したうえで記入して下さい。

| ④中間処理方法コード表 | ⑥処理・処分方法コード表 | ⑧委託中間処理方法コード表 | ⑩資源化用途コード表 |
|--|--|--|--|
| A：焼却 B：粉砕乾燥 C：焼却乾燥 D：焼却灰焼 E：脱水分離 F：中和 G：破砕 H：分級 I：溶解 J：溶融 K：切削 L：堆肥化 M：焼却灰 N：焼却灰 O：リサイクル P：資源化 Q：その他 | <自己処理> V1：自社で再利用した。 V2：売却（転売）があった。 Z1：自社で保管している。 G1：自社の処分場で処分した。 <産業廃棄物処理業者等へ委託処理> U1：処理業者に中間処理（資源化・リサイクルを含む）を委託した。 X1：廃品回収（資源）業者、あるいは納入業者、関連企業等で再生処理をした。 S1：民間の処理業者の処分場で直接再生処理した。 T1：民間の処理業者の処分場で間接再生処理した。 T2：処理業者で直接再生処理した。 <市町村・一部事務組合へ委託処理>（ごみ収集を含む） R1：市町村等が設置する再生立処分場へ搬入した。 R5：市町村等が設置する焼却炉へ搬入した。 R6：市町村等が設置するリサイクル施設へ搬入した。 <その他> Z9：その他 | A：焼却 B：粉砕乾燥 C：焼却乾燥 D：焼却灰焼 E：脱水分離 F：中和 G：破砕 H：分級 I：溶解 J：溶融 K：切削 L：堆肥化 M：焼却灰 N：焼却灰 O：リサイクル P：資源化 Q：その他 | 10：鉄鋼屑 20：非鉄金属屑 30：木材 31：木炭 41：陶器 42：肥料・堆肥 43：土壌改良材 50：土・土壌改良材 51：再生木材・合板 60：ALUP・積層材 70：ガラス破片 80：再生紙 90：セメント・陶材 91：再生油・再生油類 92：中和剤 93：高炉還元 98：その他 |

廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入して下さい。また、定期的回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入して下さい。

⑩処理後の処分方法
1 再生利用・リサイクルしている
2 埋立処分している

⑩処理後の処分方法
1 再生利用・リサイクルしている
2 埋立処分している

⑩処理後の処分方法
1 再生利用・リサイクルしている
2 埋立処分している

| |
|-------|
| 調査票番号 |
| |

産業廃棄物等の処理等に関する意識調査票

「産業廃棄物等に関する調査票」と同様に記入し、併せてご返送ください。
 なお、「産業廃棄物等に関する調査票」の(その1)にて、「廃棄物等の発生がない」とご回答いただいた場合は、本調査票の回答は不要です。

設問 1 貴事業所の産業廃棄物等の発生量の見込み(26年度を基準に3年後を想定してください)について伺います。該当する番号を1つ選び、○を付けてください。なお、現在、有償あるいは無償で引き渡しているものも含めてください。

- () 1. 発生量は今後大幅に減少する
- () 2. 発生量は今後少し減少する
- () 3. 発生量はほとんど変化しない
- () 4. 発生量は今後少し増加する
- () 5. 発生量は今後大幅に増加する
- () 6. その他(具体的に:)

設問 2 現在、貴事業所が排出する産業廃棄物の処理に関する課題について伺います。該当する番号を選び、○を付けてください。(複数回答可)

- () 1. 排出量が増加している
- () 2. 処理コストが増加している
- () 3. リサイクルされる割合が減少している
- () 4. 処理委託するルート(特にリサイクルルート)に関する情報が少ない
- () 5. 課題は特にならない
- () 6. その他(具体的に:)

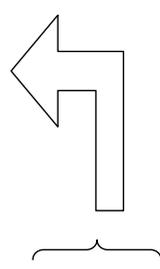
設問 3 貴事業所が排出する産業廃棄物のうち、処理が困難な産業廃棄物がありますか。該当する番号を1つ選び、○を付けてください。

- () 1. 処理が困難な産業廃棄物はない
 - () 2. 処理が困難な産業廃棄物がある
- ↳ 2に○をつけた方は、以下の質問にお答えください。
 主な処理が困難な産業廃棄物の種類、性状及び原因(下記ア～オから選択)を記載してください。

| | |
|-------------|---------|
| 産業廃棄物の種類・性状 | 処理困難な原因 |
| | |
| | |
| | |
| | |

処理困難な原因(複数選択可)

- ア 処理費用が高い
- イ 委託先の確保が困難である
- ウ 再利用ができない
- エ 分別が困難である
- オ その他(回答欄に具体的に記載)

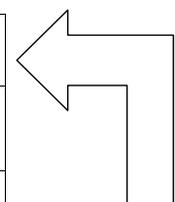


設問 4 貴事業所において、産業廃棄物の発生抑制や減量化するために取り組んでいること、また、リサイクルのために取り組んでいることについてお伺いします。

取組内容毎に該当する欄に○を付けてください。また、「検討した結果から実施しない」場合は、その主な理由について、以下のア～キから選んで記号を「実施しない理由」欄に記入してください。

| 取組内容 | 取組の状況 | | 実施しない理由 |
|----------------------------|----------------|------------------|---------|
| | (今後1年くらいで)実施予定 | 検討していないので実施していない | |
| 1. 製造工程の改善や原材料の転換 | | | |
| 2. 産業廃棄物の分別の徹底 | | | |
| 3. 自社で減量化・再資源化施設を整備 | | | |
| 4. 他事業所へ再生資源として提供 | | | |
| 5. 再生資源(原料)・再生品を積極的に利用 | | | |
| 6. 減量化・再資源化・再利用の目標値を設定 | | | |
| 7. グリーン調達(環境に配慮した物品の優先的選択) | | | |
| 8. 廃棄物や環境に関する専任部署の設置 | | | |
| 9. 社員教育の徹底 | | | |
| 10. その他(具体的に記入してください) | | | |

- 実施しない理由(複数選択可)
- ア 発生する産業廃棄物が非常に少ない
- イ 技術的に困難である
- ウ 施設又は取引できる業者が近くにいない
- エ 経費がかかると
- オ 人材の余裕がない
- カ 必要性を感じない
- キ その他



設問 5 秋田県内に不足していると感じる廃棄物処理施設はありますか。該当する番号を選び、○を付けてください。(複数回答可)

- () 1. 産業廃棄物最終処分場(安定型)
- () 2. 産業廃棄物最終処分場(管理型)
- () 3. 産業廃棄物焼却施設(感染性廃棄物の処理を含む)
- () 4. 再資源化施設(再生利用可能な製品をつくらせることができる施設)
- () 5. その他(具体的に:)
- () 6. 特に感じない

以上で、アンケートは終了です。ご回答ありがとうございました。

設問 6 県では、県内中小企業等の産業廃棄物の処理を補完する目的で、大仙市に環境保全センター（管理型最終処分場）を設置し、稼働させていますが、この環境保全センターの今後のあり方について伺います。（複数回答可）

- () 1. 産業廃棄物処理は事業者責任が基本であり、県が積極的にかわるべきではない
- () 2. 民業を圧迫しないよう民間が処理できない処理困難物に限定すべきである
- () 3. 減量化・リサイクルを促進するため、受入物を原則として中間処理残さに限るべきである
- () 4. 産業廃棄物最終処分場は、公共関与により整備することが望ましいので、県が引き続き環境保全センターの整備を図るべきである
- () 5. 県は、環境保全センター以外の処理施設の整備も図り、産業廃棄物の処理に積極的に関わるべきである
- () 6. その他（具体的に：)

設問 7 県内の最終処分場へ産業廃棄物を搬入する際に排出事業者に課税される秋田県産業廃棄物税を平成 16 年から導入しておりますが、税制度は、貴事業所における廃棄物の発生抑制やリサイクルの取り組みに有効ですか。該当する番号を 1 つ選び、○を付けてください。

- () 1. 有効であると思う
 - () 2. わからない
 - () 3. 有効であるとは思わない
- ↳ 3 に○をつけた方は、その理由を記入してください。
(具体的に：)

設問 8 県への要望について
廃棄物の減量化・リサイクルや適正処理を進めるため、県ではどのようなことかを入れていく必要があると思いますか。次のうち必要だと思われるものを次の A～J より 3 つまで選択し、下の回答欄に優先順位が高いものから順番にご記入してください。

- [選択肢]
- A. 廃棄物の量を減らし、リサイクルを進める仕組みづくり
 - B. 地域で発生したものは、地域で処理する仕組みづくり
 - C. 企業、事業所などの排出者が適正な処理費用を負担するなど、処理責任の徹底
 - D. 優良な廃棄物処理業者の育成・支援
 - E. 公共関与の廃棄物処理施設の整備
 - F. 監視や指導の強化と違反者への厳しい取締り・処分
 - G. 廃棄物の適正処理に関する技術指導
 - H. 環境負荷の少ない製品の開発や利用、リサイクル認定製品の普及等に対する支援
 - I. 廃棄物についての県民の知識や理解を深めるための啓発活動
 - J. その他（具体的に：)

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 回答欄 | 1 | 2 | 3 |
|-----|---|---|---|

※最も重要だと思われるものから順番に記入してください。

秋田県産業廃棄物等に関する調査票（その3）

F33-電気業

| |
|-------|
| 調査票番号 |
|-------|

活動量指標値の現況と将来計画に関するアンケート票

貴施設の現況（平成26年）の発電電力量の実績値と平成27年、32年、37年の計画値を記入して下さい。

| | 実績値 | 計画値 | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 平成27年 | 平成32年 | 平成37年 |
| 発電電力量 | Mwh/年 | Mwh/年 | Mwh/年 | Mwh/年 |

※計画値を他の年度で設定されている場合は、その年度と計画値をご記入下さい。

秋田県産業廃棄物等に関する調査票（その3）

F361-上水道業

| |
|-------|
| 調査票番号 |
|-------|

活動量指標値の現況と将来計画に関するアンケート票

貴施設の現況（平成26年）の給水人口、給水量の実績値と平成27年、32年、37年の計画値を記入して下さい。

| | 実績値 | 計画値 | | |
|------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| | | 平成27年 | 平成32年 | 平成37年 |
| 給水人口 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 給水量 | m ³ /年 | m ³ /年 | m ³ /年 | m ³ /年 |

※計画値を他の年度で設定されている場合は、その年度と計画値をご記入下さい。

秋田県産業廃棄物等に関する調査票（その3）

F363-下水道業

| | |
|-------|--|
| 調査票番号 | |
|-------|--|

活動量指標値の現状と将来計画に関するアンケート票

貴施設の現状（平成26年）の処理対象人口、処理水量の実績値と平成27年、32年、37年の計画値を記入して下さい。

| | 実績値 | 計画値 | | |
|--------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| | | 平成27年 | 平成32年 | 平成37年 |
| 処理対象人口 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 処理水量 | m ³ /年 | m ³ /年 | m ³ /年 | m ³ /年 |

※計画値を他の年度で設定されている場合は、その年度と計画値をご記入下さい。